

附属機関等の名称 会議概要

- 1 審議会名 安曇野市交流学习センター施設検討委員会 第1回公聴会
- 2 日 時 平成 18 年 10 月 20 日 午後 7 時～午後 9 時
- 3 会 場 安曇野市穂高会館 第1・2会議室
- 4 出席者 益子会長、草深副会長、丸山委員、松尾委員、中田委員、三枝委員、中嶋委員、赤沼委員、松田委員、巻山委員、細川委員（まちづくり推進課長）、松枝委員（社会教育課長）
- 5 市側出席者 望月教育長、小林教育次長、曾根原文化振興係長、財津文化振興係主査、堀文化振興係主任、丸山豊科教育課生涯学習係長、原野穂高教育課生涯学習係長、那須野三郷教育課生涯学習係長
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 参加者 20 人 記者 3 人
- 8 会議概要作成年月日 平成 18 年 10 月 24 日

1. 会議の概要

- (1)開 会
- (2)あいさつ
- (3)報告書(案)の概要説明
- (4)意見交換
- (5)検討委員会各委員からあいさつ
- (6)今後のスケジュールについて
- (7)閉会

2. 審議概要

- (1)報告書（案）の概要説明
【委員会人員構成について説明。】
【ポイント・あるべき姿に至る経過等について説明。】

(2)意見交換

〔意見〕

豊科とか穂高とか区別は無いのが、ちょっと思ったのは、この安曇野市の図書館を作った場合の将来像はちゃんと考えられているか。資料のグラフでは安曇野市は低いですが、将来はグラフの数値を倍にできるとか、こういう風にしたいとか、その辺の意見は出たか。

（説明）

建物の規模や機能も大事だが、運営の方法、スタッフや市民の皆さんの協力で利用の目的に合ったサービスができるようにしていきたいとの意見が出た。

〔意見〕

それは何年後の計画か。

（説明）

図書館の具体的な目標について、検討時に事務局から提出した資料では、値は個人貸出 30%、個人登録数 3 万人、総蔵書数 40 万を概ね目標とし、検討をお願いした。運営の方法についてだが、安曇野市には既に図書館協議会という公の機関があり、図書館の運営についてはそちらに委ねて頂き、検討委員会では図書館の設備や蔵書数について方向付けをして頂くようお願いした。そのため踏み込んだ議論は無かったとご理解し

て頂きたいと思う。先程の提言の中にあった図書館スタッフの質の向上等ソフト的な部分の提言も頂く。

〔意見〕

穂高の検討委員会では顕彰館に風向きがあり、志立の館、新しい世代の子ども達に志を立てさせたいという積極的な意味を付託させて顕彰館を考えていた。26 頁を見るとあれもこれも取り入れているが、そこから文化が発信されるような位置付けが足りない。どうなってしまうんだろうと思う。学校の子ども達皆を連れていきたくするような場所にならないか、まさに皆の英知を集めまして安曇野の心がそこに漂いあふれ出すような。願いとしてはそういうものができる嬉しいなあと思う。予算について新しい提案から言うところの程度の予算措置を頭に描きながら提案がなされているのかどうか。もう一点は、文書館を作らなければいけないという話がありました。松本の文書館は大活躍している。付帯的なものになるかもしれないが一体安曇野市というのはその辺の話は今回出てきたのかどうか。どのような位置付けとして考えているのかお聞きしたい。

（説明）

顕彰施設ですが、これからの顕彰機能を含んだ企画運営につきましては専門家の皆さんに相談しながら運営委員会を作ってそこに結びつけていきたいと考えた。また、予算と施設につきましてはまずこの地域にはどんなものが必要なのか、何故必要なのか、どの位の規模・機能が必要なのかという所から考え相応な建物にしていきたいと考えた。文書館はこれに変わるべきものとして中央図書館に諸資料の収集施設というものを設け学習や研究の場として市民の皆さんに有効に活用して頂きたいと考えた。事務局の方からございますか。

（説明）

予算については先程会長が申し上げた通り。私共としましてはあまりそういう事を考えずに検討して頂いている。これから私共としてはこういう会議に入っていく。文書館だが、もうひとつの考え方として公の文書（行政文書）を保存する文書館が私共の頭の中にある。それについては今回の検討には入っていない。諸資料は市民の皆さんの研究・学習するものとして整備したいという内容。

〔意見〕

顕彰、ここでは歴史を残すという言い方をしているが、新しく専門家を入れた組織を作るという事は、その組織にかなりイニシアチブを与えるという事になるのか。

（説明）

検討委員会の中では議論はしていない。専門家を交えないとできないという意見があった。

〔意見〕

何故顕彰館かという事だが、まずその原点になるものを検討されたらどうか。何故なら私は顕彰館の地域委員として昭和 40 年代からやってきていますが、明治・大正に活躍された方々の資料・文書・残されているものが段々と散らばって行ってしまい、特に紙に書いてあるもの等は痛んでしまっている、それを一所に集めて研究したい、それが原点ではなからうかと思えます。そういう点をご審議されたらどうか。それから、予算的なものは、これからこれを実行する迄の準備立てというか、おそらく教育委員会で協議し市長が答申し議会が承認し予算ができあがってくると解釈しているが、その辺はどうか。

（説明）

歴史の中で大変功績のある皆様方を顕彰するという事は意見を出して頂いた。その図書館の所でこれから専門的な事を我々が決めていくのは不可能であるから、この図書館に付帯した学習施設に顕彰ができる部屋を作っていくという事でした。功績だが、顕彰する方を特定する審議はしていない。ただ、ここに資料を留めて頂いた 100 名位の皆様の資料をまた何らかの形で活用させて頂きたいと思う。

（説明）

本会の最後に説明させて頂くつもりでしたが今後のスケジュールについて説明させて頂く。

今日と明後日豊科で公聴会を行います。そしてその中で出ました皆さん方からのご意見については再度検討委員会を開いて頂き、最終的な案をまとめて報告という形で教育委員会に出して頂く、これを受けて教育委員会、基本的には市長ですが市長がどのように予算付けをしていくかという事になる。今私共で考えているのは、なるべく早くこれを提出して頂ければ、それを尊重しながら、皆さんのご希望もある事ですので

べく早い時期に具体的な動きに入ってまいりたいと考えている。

〔意見〕

わかりました。ただ、やはりこういうものは相当皆さんが力を入れてこういう方向でいきたいというものが出てきて始めてモノになると思うのだが、なかなか大勢の人の意見を聞いていてもこれが果たしてそれが集約できて上手い方向にいくかという事も私は心配する。折角私共も本当に何十年という間、松沢求策の選書会の会長をやっている訳で。私は本を作って子ども達に喜んでもらったり、いろいろな事をやってきている訳でだが、是非松沢求策だけでなく、只今 100 人位の方という、その中で全部が出るかどうかそれは私がどうこう言う訳にいきませんけれども、本当に、この安曇野には非常に素晴らしい人物が沢山出ている、そういう事を踏まえて顕彰という言葉が先程変わった方向にいくような感じだが、できたら顕彰という言葉を残して頂ければ有難いなと思う。

（説明）

ありがとうございます。顕彰につきましては学習センターの検討の中では議論が沢山でしたが、安曇野市という地域と共に地域の歴史と一緒に人物も残していきたいという事付けになった。これからの運営においてもその旨申し送っておきたいと思う。

〔意見〕

事務局の方にお伺いしたいが、穂高、豊科、三郷でプロポーザルをしていますね、それで当選なさった業者の方々に今後もお任せするのか、それとも改めてプロポーザルをやって建物を建てるのかスケジュールをお伺いしたいと思う。それと、もしプロポーザルでやる場合ですと、今までどんな町村も密室で行われて結果しか報告が無かった訳ですけれども今回は最初から公開でやられるのか、その点もし検討されていたらお話頂きたいと思う。

（説明）

プロポーザルという話があったが、今私共の引き継いでいる案、絵については3町村共プロポーザルを行って頂いてその当選者を出して頂いて、が基本です。ただし豊科の場合は補足して基本設計を若干組んで頂いてありますが、大体同じようなものだと思います。それで安曇野市がその絵をどのようにするか、そのプロポーザルの当選業者にどのようにしていくかという話だが、安曇野市としましてはプロポーザルで当選した方々に引き続き今回の設計をお願いする。これは、プロポーザルという業務は作品を選ぶコンペではなく、あくまで設計者・設計事務所を選定する作業。それで、実際の所例えば豊科の場合も随分変わると思う。前のものは使えないかもしれない。穂高の場合も中央図書館という位置付けになったのでかなり図書館部分が大きくなったりするのでかなり筆が加わると思う。ただし、これは先程申し上げましたように当初絵を選考したのではなく設計者の能力を選考したという立場からプロポーザルで選定された業者さんをお願いするという考え方、これについては安曇野市も発注行為については業者選定委員会という助役中心の選定委員会がある。これに先日かけまして議論してそのように決定して頂いた。

〔意見〕

今回、当初の予定とはかなり変わっていますよね。前の選定方法について異論を唱える訳ではないが、指名プロポーザルの決定後役場内で全く公開が無かった。それについてどういう風にお考えか。決定の仕方が不透明という事もあるし、点数で何々について各事務所は何点かというような選定だったら、公開とかも、全くの密室で結果しか報告がなかった。今回も大幅に計画が変更になっている。この点についてどういう風にお考えか。

（説明）

プロポーザルは各3町村の段階でやって頂いている。私共はその作品は引き継いでいるが、合併前の事については何とも申し上げられない。それは是非ご理解頂きたいと思う。ただ、私共が承知している限りでは公開非公開はわからないが、きちんと選考委員会ができてその中で評点があって採点をされてその上で一番点の高かった所が採用されたと聞いている。次に、だいた絵が変わってしまったという事だが、そこはプロポーザルをやった段階で当選した事務所については、そこの素案が当選した訳ではなくそこが一番能力が高いと判断した訳ですので引き続きやって頂く。そして旧町村のプロポーザルで当選した事務所に今後の実施設

計をやってもら、随意契約を出す事になっていて、それは一般のプロポーザルの普通の形。そして私共が引き継いだ段階でもう一度安曇野市として確認する為に業者選定委員会に計り認められたので引き続きお願いしていこうという立場をとっている。

〔意見〕

納得していないが、そういう委員会があって決まったなら仕方ない。旧町村においての指名プロポーザルという事の意味自体が、今度新しく安曇野市になって計画も大幅に変更になっているのにそれを引き続き旧町村から引きずったものをそのままやるという事はいかなものかという提案とさせて頂きたいと思う。

（説明）

ありがとうございました。私共としてもプロポーザルの件については全くわからないので、検討委員会の方ではご説明できず申し訳ありません。皆様方から頂きました貴重なご意見は必ず申し送りしたいと思う。

〔意見〕

私は今まで調べものをしたい時は松本の中央図書館まで行っていたので、それが今度穂高に中央図書館ができるという事でとても有難いと思う。絵本の読み聞かせをする時、主に明科を利用しているが、書架が低いので絵本が上手く展示できない書架になってしまっているの、是非実際に使う方の意見を聞いて利用者が利用しやすい施設を作って欲しいと思う。また、なるべく早くの建設をよろしくお願いしたい。

（説明）

ありがとうございました。明科には伝えていきますし、これからの図書館等運営につきましてはそういったお声を充分にお聞きしながら生かしていきたいと思う。他にどんな事でも結構ですが。皆様のお手元にご意見記入のアンケートが届いておりますか。よろしければご意見書いて頂ければ検討させて頂きたいと思う。

〔意見〕

図書館の事でお聞きしたいが、山口県でしたか漁村で利用率の高い図書館がある。夜遅くまで開館している。また、うんと気楽に入っていけて老いも若きも図書館を心のセンターとして利用している所も確かにある。この地区の図書館というものがまさにそういう場所として開かれていくようになって欲しい。在来の図書館というイメージでなくまさに新しい時代を勝ち取るようなそういうイメージの変換をして是非進めていって頂きたいと要望する。

（説明）

当検討委員会でもそういう意見が沢山出た。先程申し上げましたユニバーサルデザインの理念を入れて建物だけでなくそこまでの交通網も検討した。時間帯につきましても大人の皆さんが勤めを終えてからでも利用できるように交流施設を考えていきたいと検討が成されたのでこれは実現できると思う。ご意見ありましたらアンケート用紙にご記入下さい。皆さんの貴重なご意見を残しておきたいと思う。

3. 検討委員会各委員からあいさつ

（委員）

この委員会で、私は障害を持った人でも行きやすい施設にしたいと思い活動してきた。

（委員）

合併したからには安曇野にふさわしい施設を作る事が非常に大事な事と考えている。しかしそれ以上に地域が活性化するにはその地域の特色がある施設を作るのが大事だろうと考えてきた。結果的に委員会でそちらの方にまとまり大変嬉しく思う。このような地域の施設ができて何時でも誰でも何処でも気軽に利用できる施設にして頂ければそれが生涯学習の伝統でありますので嬉しいと思う。

（委員）

このような検討委員会に参加したのは初めてで、問題がすごく多くてとても難しいなと思ったのが実感。まず安曇野市になったんだという事を皆がもう一度認識する事から始めなければいけないと、毎回この会議に参加してすごく思う。これからもまだまだ課題がすごく多いので、よい方向に進んでいくようにこれからも参加できればいいと思う。

（委員）

私もいろいろ考えさせられた中で、人と人との繋がり、コミュニティがこれからは大事にされる社会になると思った。歴史の上に立った今日であり、素晴らしい安曇野市ができる拠点を作る事にお手伝いさせて頂けて有難いと思った。

(委員)

私は安曇野市が誕生したこの機会に、此处が文化都市として在るようになったら素晴らしいなと思い、図書館を利用している者として素晴らしい図書館を作っていきたいという気持ちで参加した。5つの町村が合併したという事でそれぞれの思惑があり、なかなかまだいいものが出るという所にはまだ課題があるが、一生懸命検討させて頂いた。

(委員)

私は三郷から来ているのですがやはり本を見る機会が少ないという事なので、早く図書館ができればと思い参加させて頂いた。

(委員)

私はこの検討委員会になってから個人的に浦安の図書館に行った。その時の来館者は2/3程が30代40代といった働き盛りの男性が占めていて、生活に欠かせない場になっていると感じた。そんな図書館が安曇野にも欲しいという思いで検討委員会に参加させて頂いた。

(委員)

私は三郷地区に児童館がないので、そういう立場から参加させて頂いた。安曇野市になってどこの地区も等しく子ども達が将来学習センターを拠点として素晴らしい大人に育っていった欲しいと思い、交流センターを考えさせて頂いた。安曇野市全体としての問題はあと思うが、是非、これから安曇野市がひとつになって各地区がよりよくなっていった欲しいと思う。

(委員)

皆さんご苦労様でした。私はまちづくり推進という立場で、まちづくりはひとづくりという観点から5地域のみなさんが一緒になって検討する、どういう検討がなされるかという事も含めまして真剣に委員の皆さんが個人的な資料をお持ち頂いたり、あちこちへ勉強にいかれたりという中で活躍された所を見せて頂いたという事を機会ですので皆さんにご紹介させて頂きたいと思う。いろいろな課題があったが、最終的には皆さんが納得する形で委員会としての方向付けができた。これから、こういった検討委員会が幾つかの形で出てくると思うが、私も必要に応じて一緒に勉強させて頂きたいと思う。

(委員)

役割の重さに潰れそうになる時もあるが、大勢の皆さんに出来てよかったねと言って頂けるような施設を目指していきたいと思う。

(委員)

私念頭に思っていたのが、まず市民の施設であるということ、それからユニバーサルデザイン。それから検討委員会というのはほんのプロローグであり今後が大事であるという事。市民のというのは、施設は市民のものであり、また市民自ら共に考え運営していくものでもあるという意味。ユニバーサルデザインとは、全ての人が思いやりをもって交流するユニバーサルデザインの故郷を築いていきたいということ。プロローグというのは、施設は建設する事よりその後の運営の方が大事ということ。今後もし指導頂きまして皆さんの素晴らしい施設にしていきたいと思う。

4. 今後のスケジュールについて

(説明)

具体的にいつこんな事をというのは考えていない。公聴会を経て報告書をきちんとまとめて頂いて、(案)がとれた段階で安曇野市が報告書として預かり頂いて、これについて議論をさせて頂く。報告書の内容を充分尊重した上で、なるべく早い時期にこういった施設が完成しますよう今後努力してまいりたいと思う。